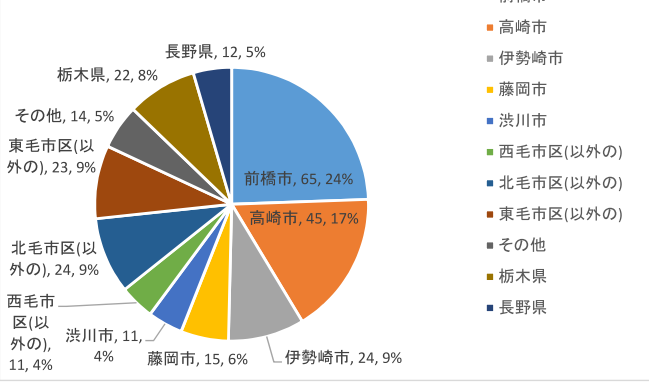
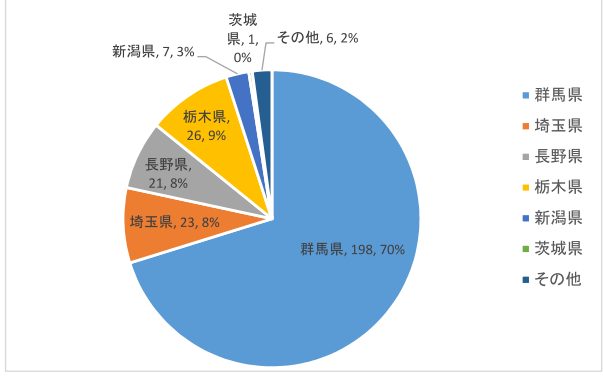


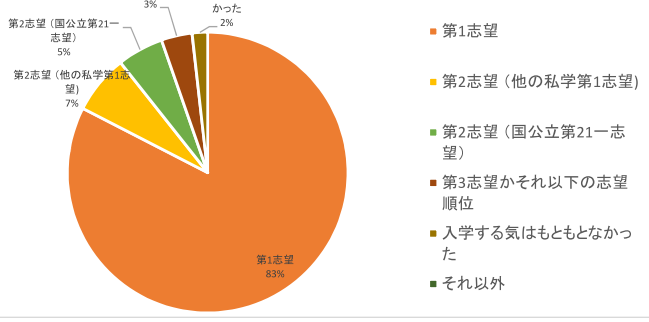
3.出身地域



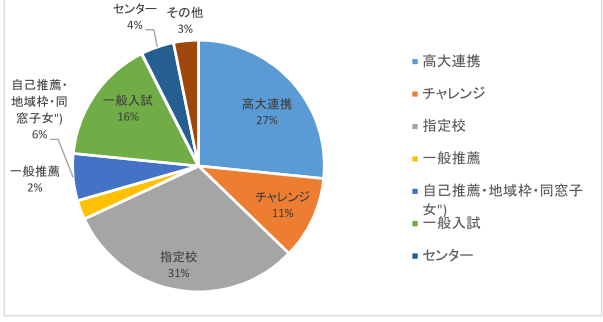
4.卒業後に居住したい地域



5.志望順位

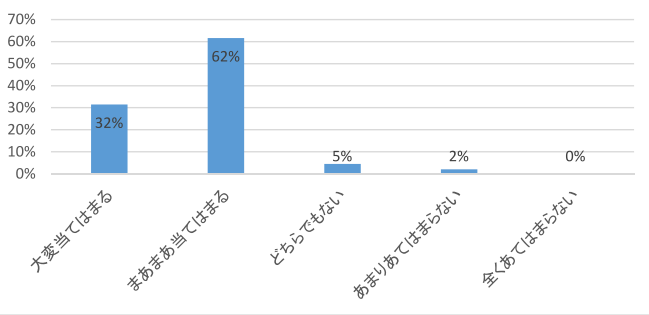


6.受験した際の入試区分

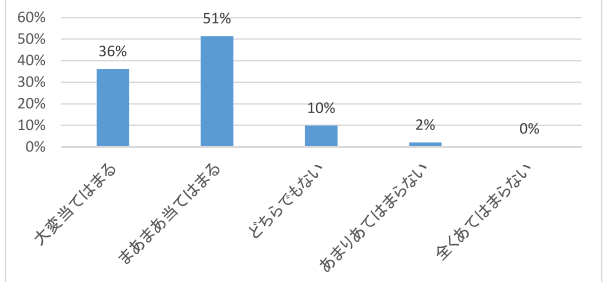


あなたが高校生だった時、次のことがらをどの程度できていたと思いますか

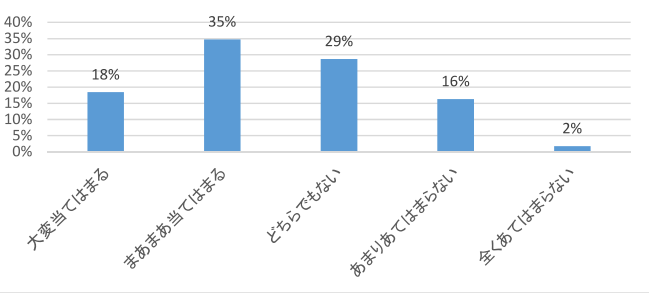
7-1 授業は基本的なまじめな姿勢で受けることができていた



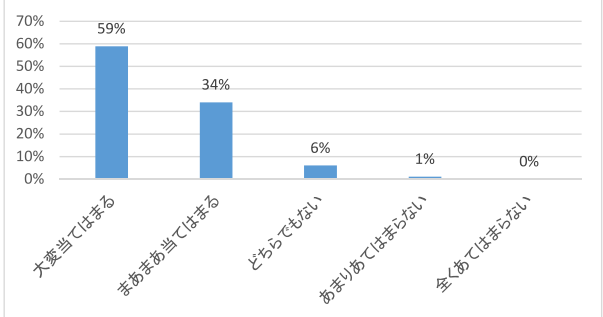
7-2 大学受験や何らかの資格取得のための勉強について、比較熱心に取り組むことができた



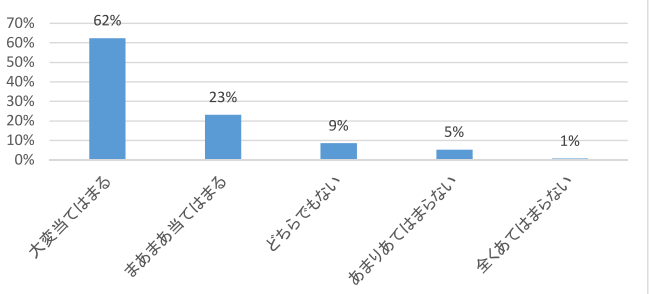
7-3 授業や受験とは関係のない学習面で、「読書」や「学習活動」など、力を入れて取り組んだものがあった



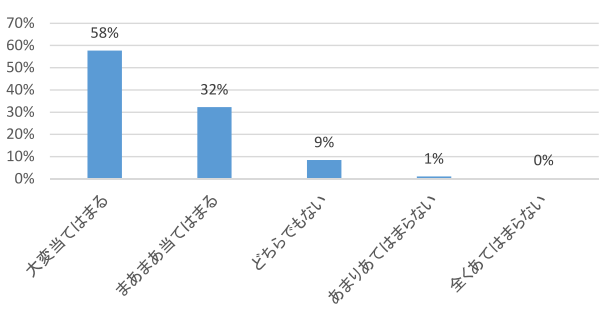
7-4 学校の先生や仲間とはだいたい良い関係を気付けることができた



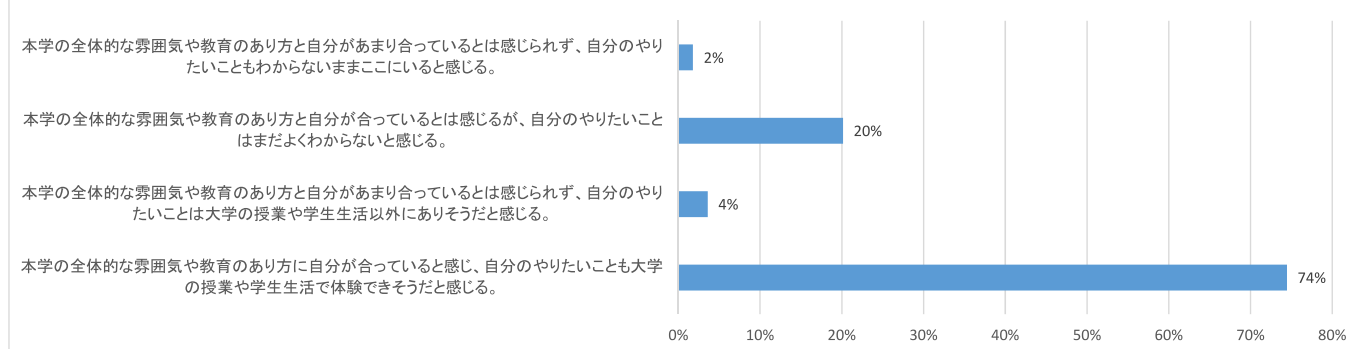
7-5 部活やクラブ活動、行事など、学習以外の面で力を入れて取り組んだものがあった



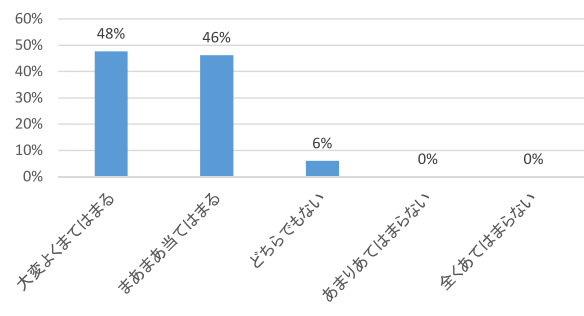
7-6 高校生活全般を通して、大きく成長できたと感じていた



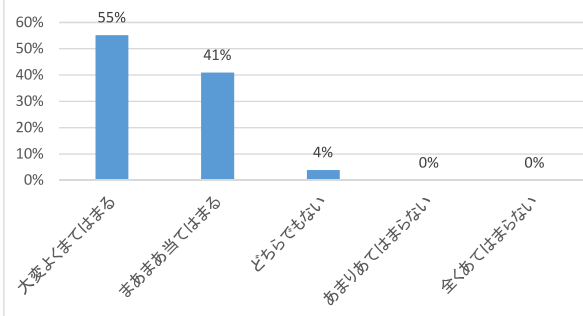
8.大学入学時点の自分の気持ち



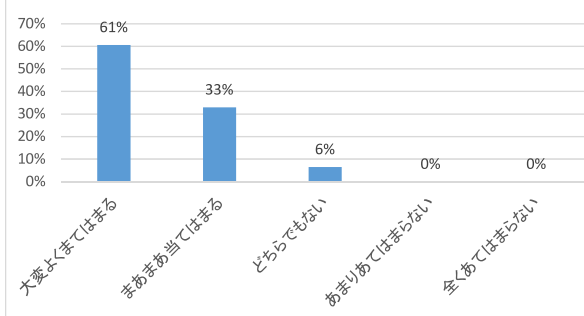
9-1 大学、短大における授業では、よい授業が多くあると思う



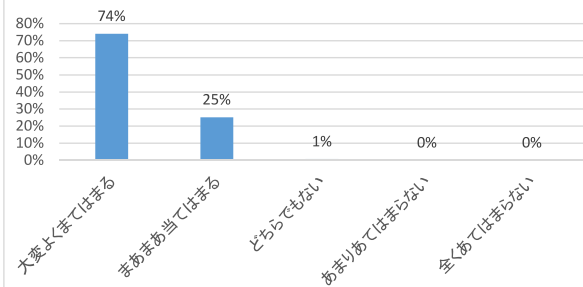
9.2大学、短大生活の中で、良い先生との出会いがあると思う



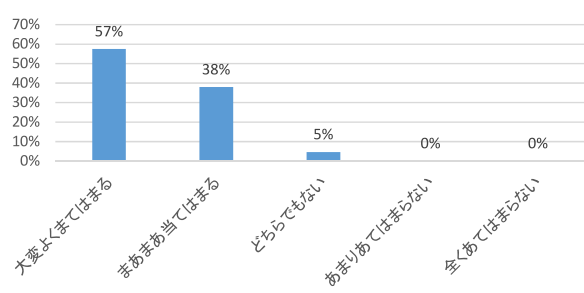
9.3 大学、短大生活の中でよい友人との出会いがあると思う



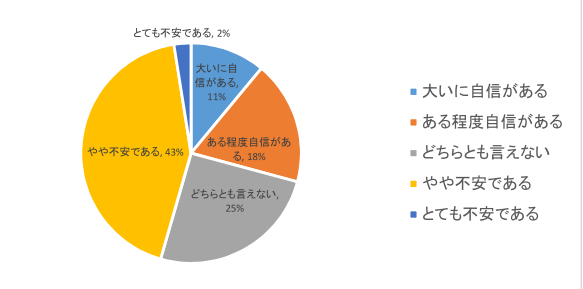
9.4大学、短大生活の中で直接資格に関わる学習について、多くの実践や経験を積むことができると思う



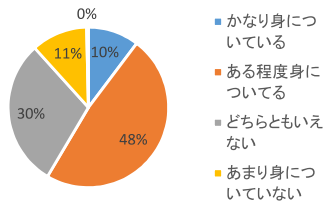
9.5 大学・短大生活の中で直接資格に関りがない教養的な学習について、多くの実践や経験を積むことができると思う



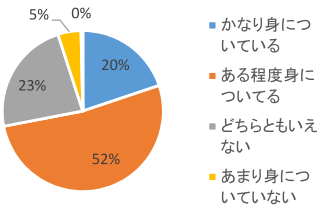
11. 問10で選択した資格について、それを取得するための学習や試験についての感じ方について



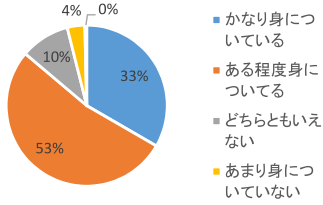
12.1 1つのものを複数の視点から考える力



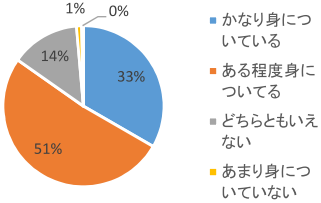
12.2 人やものごとの背景にあるものや関係性を理解する力



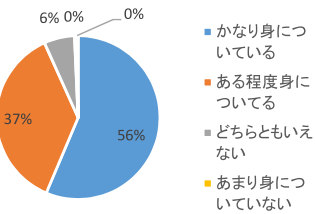
12.3 自分の役割ややるべきことを理解する力



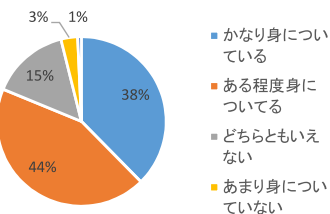
12.4 自分とは違う立場の人の考えや視点を理解する力



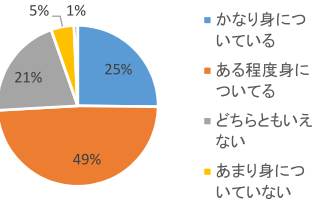
12.5 自分や他人を大切に思いやる力



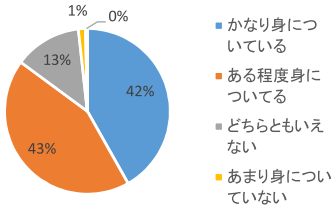
12.6 物事に進んで取り組む力



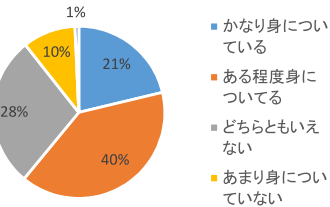
12.7 何かを変えるために考え行動する力



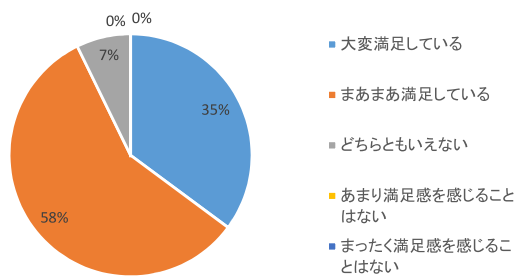
12.8 学び続けていこうという気持ちや態度



12.9 なんらかの専門職としてふさわしい知識や力



16. 入学時の感じ(満足感)としてふさわしいものはどれですか



入学生アンケート結果報告及び提案

IR室

本調査は今年度（2020年度）入学した全学生に対して調査したアンケートデータを分析した結果を報告する。データをグラフとしてまとめたものは、別紙の通りである。グラフは全学生と、学部・専攻ごとにまとめている。入学生アンケート結果から、本学の今後の入試広報や教育を検討していくうえで、特に重要な点として、以下の5点を提案する。

1. 入試広報で本学の資格取得サポート体制の充実をアピール

多くの入学生が、資格試験の学習に不安を感じている。（グラフ 11）特に社会福祉専攻では、「どちらでもない」「やや不安である」「とても不安である」が89%となっており不安感がどの専攻よりも強い傾向にある。今後オープンキャンパス、高大連携、高校訪問、高等学校教諭対象学校説明会等での説明や、ホームページやパンフレットにおいて、本学の資格取得サポート体制の充実度を分かりやすくアピールすることで、県内の競合する大学と差別化を図ることができ、受験生を増やすことができる余地がある。

2. 子ども専攻の入試広報の重点化

（1）高大連携、推薦入試の受験生を増やす必要性

子ども専攻の入学生の入試形態は、一般入試、センター試験利用型が多く、高大連携、推薦入試が低い。子ども専攻は深刻な定員割れの状態になっており、高大連携、推薦入試で子ども専攻の受験生を増やしていくことが重要になってくる。

（2）授業の好感度を上げる必要性

「大学、短大における授業では、よい授業が多くあると思う」（グラフ 9-1）と回答した入学生が他学部と比較して子ども専攻で低い傾向にある。他の専攻や学部と比べて子ども専攻の入学性は、本学の授業に魅力を感じていない割合が高く、子ども専攻の授業の魅力を高めていくために、カリキュラムや教育方法の改善を検討し、高校生に伝えていく努力が必要になってくる。

3. 子ども専攻の教育の充実

「授業や受験とは関係のない学習面で、「読書」や「学習活動」など、力を入れて取り組んだものがあった」（グラフ 7-3）、「なんらかの専門職としてふさわしい知識や力」（グラフ 12-9）の項目で、子ども専攻の入学生は否定的な回答をしている割合で高い傾向にある。また「本学の全体的な雰囲気や教育のあり方と自分があまり合っているとは感じられず、自分のやりたいことは大学の授業や学生生活以外にありそうだと感じる。」（グラフ 8）の項目の

回答割合が高い。子ども専攻の入学生は、学習意欲が他の専攻、学部と比べて低い傾向があり、本学での教育成果を高めていくために、子ども専攻の学生に対して、サービラーニングや授業において、個別支援などきめの細かい教育がより一層求められていく。

また、サークル活動を通して様々な力を身につけたい（(グラフ 13)と回答している入学生が多く、教育内容と連携させたサークル活動の充実も子ども専攻学生の興味を引くことにつながるのではないだろうか。

4. 学習・学生生活に対する気持ちでの課題

(1) 学生の職業観の明確化の必要性

「本学の全体的な雰囲気や教育のあり方と自分があまり合っていると感じられず、自分のやりたいこともわからないままここにいると感じる。」(グラフ 8)と回答した学生が社会福祉専攻、作業療法専攻、看護学部の学生に一部存在する。また社会福祉専攻の学生の中に、在学中に資格取得が不可能な介護福祉士の取得を希望しており(グラフ 10)、希望する職業が不明確な新入生を把握し、クラス担任を中心に学生の職業観を明確化していくように教育をしていく必要がある。

(2) 良好な人間関係を築くためのサポートの必要性

「大学、短大生活の中で、良い先生との出会いがあると思う」(グラフ 9-2)、「大学、短大生活の中でよい友人との出会いがあると思う」(グラフ 9-3)、「高校時代において、学校の先生や仲間とはだいたい良い関係を気付くことができた」(グラフ 7-4)の項目で大変よくあてはまると回答した学生が、理学療法専攻の入学生に多い傾向があるが、逆に短大の入学生に低い傾向がある。短大の入学生に対しては、友人や教員と良好な人間関係が築けるように、クラス担任を中心に大学生活をサポートすることが必要になってくる。

5. 入学時点で身につけている態度での課題

(1) 建学の精神に基づく教育の必要性

「自分や他人を大切に思いやる力」(グラフ 12-5)がかなり身につけていると回答した学生が、看護学部、リハビリテーション学部の新入生に多い傾向がある。一方短大と社会福祉学部の新入生は低い傾向がある。前橋キャンパスでは思いやる力を育てるため、サービラーニングでの教育プログラムの開発が必要である。

(2) 多面的・多角的な見方・考え方を育てる教育の必要性

入学時点で身につけている態度について、「1 つのものごとを複数の視点から考える力」(グラフ 12-1)の力が新入生に弱い傾向がみられる。多面的・多角的な見方・考え方を育てる教育を本学で検討する必要がある。